

18 私たちにできること

○住みよい環境づくりのために



震災直後は、何をどうしていいかわからず、ただなんとなく時間を使ってしまったことがありました。でも、一日中動き回っている地域の人や学校の先生方を見ていると、自分たちにもできることがあると思いました。

それからは、プールからトイレまでの水くみ、配給物資の運搬、掃除などをしました。大人とほとんど変わらない体力なので、たいていの仕事は手伝うことができました。

特に掃除には自主的に取り組みました。避難所開設直後は、土足で出入りしていた場所が多く、いつも自分たちがきれいにしてきた校舎が、どんどん汚れていきました。トイレの汚れもひどかったです。

震災後の緊急事態なので汚れるのもしかたないのですが、自分たちでなんとかしなければいけないと思いました。掃除をしている姿を見つけ、一人、また一人と手伝う仲間が増えていくのは、とてもうれしいことでした。

また、多い時には、1,000人近い人たちが生活していた避難所です。一日に発生するごみの量も想像以上です。配給される食事が済むと、包装紙や容器が、多量のごみとなって発生します。

教室や体育館から出たごみ袋は増える一方です。避難所が少しでも住みやすくなればという思いで、このごみ袋を一か所に整理したり、別な場所に移動させたりしました。だれかに頼ってばかりではなく、自分たちの生

活を、自分たちの力でよりよくしようとするのが大切であると改めて感じました。

また、自分たちにできることは、まだあったと思います。生徒会や部活動、学級などの組織を、もっと避難所の運営やお手伝いに生かされたかもしれないと思いました。

(中学校3年男子)

救いの手をさしのべて

住む場所がなくなり、食べるのにも困ったのは人間だけではありません。ぼくは、避難所の近くで保護された犬の面倒をみました。

散歩や餌やり、夜はみんなに迷惑をかけないように、職員室前のベランダにつないで、先生方に見守ってもらいました。犬もきっと心強かったと思います。

何日か過ぎ、犬を引き取ってくれる人が見つかった時は、寂しかったけれど、うれしかったです。きっと今も元気でいてくれることと思います。

(中学校1年男子)

- 生徒会や部活動などの組織を、避難所の皆さんのために、どのように生かしたらよいでしょうか？